さざ波（Ripple）のようにおもいをつなぐ情報の架け橋

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙

第234号

22.7.25

Contents

P2
・インタビュー続き
・活動報告
　堺市街地地域　消費コミュニティ
P3
・近畿親生会紹介「㈱坂利製麺所」
P4
・「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪
・理事会報告　・おたよりネット
・編集後記

私たちの消費が産地の暮らしにつながる

㈱オルター・トレード・ジャパン
代表取締役社長
山下 万里子さん

4月より生活クラブ関西6生協統一の「よやく･る」という消費材の予約システムがスタートしました。これまでも『バランゴンバナナ』は登録利用できましたが、『エコシュリンプL』と『エコシュリンプむき身』も予約して食べることができるようになりました。そこで、これらの消費材を供給している「㈱オルター・トレード･ジャパン（ATJ）」代表取締役社長の山下万里子さんにバナナやエビの民衆交易についてお話を伺いました。

（聞き手：理事長 吉田 正美）

根気よく産地とつながり30年

吉田　『マスコバド糖』や『バランゴンバナナ』の民衆交易は、1974年の米国の特恵待遇の終了と1980年代の国際砂糖相場の大暴落による飢餓の支援に始まります。植民地化以来の砂糖産業のモノカルチャーでの脆弱な経済構造の結果がもたらしたものでした。初めは物資などの援助活動でしたが、「自分たちに必要なものは、魚ではなく、魚を獲る網です」という現地の人たちの声を聴き、33年前に生産者＝農民の自立に向けた取り組みを始めました。私が以前バランゴンバナナの産地のフィリピン･ネグロス島を訪れた時、「バランゴンが町を良くした」と言われました。私たちの消費は産地の生産者の暮らしにどのように関わっているのでしょうか。

山下　現地の人々の食を奪わないために、当時は自生していて現地ではあまり食べられていないバランゴンバナナを道具に輸入を始めました。輸入を始めた当初、日本の港に到着した時には真っ黒に変色して食べられる状態ではありませんでしたが、消費者の皆さんが根気強くつながり、今では品質も改善され、現地の人たちの定期的な収入を生み出すことになり、先を見据えるような生活をできるようになりました。

エコシュリンプが始まった30年ほど前、日本は世界有数のエビ消費国でした。大量生産をするために池をコンクリートで固め、大量の薬剤を使用した飼育方法で、現地の自然環境や暮らしまでを壊していました。そこで、バランゴンバナナでつながった消費者と課題を解決することができるエビを探したところ、ジャワ島のグレシックで「子孫に土地を渡したい、この環境をつないでいきたい」という生産者と出会い、民衆交易が始まりました。現在、エビの産地はジャワ島、スラウェシ島に拡がり、エコシュリンプ事業開始当初からいる生産者、親から引き継いだ世代など、総勢1,400名ほど生産者が粗放養殖※に取り組んでいます。池のメンテナンスも自分たちでおこない、熱意をもって生産をしています。養殖池があるのは郊外なのでインフラが整っておらず、池につながる川が汚れないように、各家の前にゴミ箱を設置し、毎日回収して分別して処理場へ持っていく仕組みを生産者と作りました。噂を聞きつけた近隣の村にも

2面に続きます

活動が少しずつ広がり、やがてゴミ回収の仕組みは自治体に引き継がれるようになりました。また、現地の子どもたちにせっけんづくりのワークショップをおこない、環境を守る活動もしています。エビの養殖池にも通じる環境を守るため、様々な活動に取り組んでいます。生産者や地域の自治体も巻き込み、持続可能な養殖と環境、生産者自身の健康を守る運動に発展しています。

吉田　人と人とがつながることで、バナナやエビを通して共に問題解決に向かうことができます。今の課題としてはどのようなことがありますか。

山下　バランゴンバナナは安定供給という課題があります。昨年12月にも非常に強い台風22号（オデット）がフィリピンを直撃し、大きな被害がでました。せっかく育てたバナナが台風で倒れても、めげることなく、生産者はまた次の苗を植えて再生に前向きに取り組んでいます。エコシュリンプでは、消費者はむき身や小ぶりのエビを好みますが、生産者はエビを大きく育てることにポリシーを持っているので、話し合いを重ねて調整しています。

吉田　課題を共有することで消費者としても食べ方が変わるかもしれませんが、気候危機については共通の喫緊の課題ですね。

山下　フィリピンのネグロス島やミンダナオ島などでは、バナナが根こそぎ倒れたり、茎が折れたりして大きな被害を受けました。生産者やパッカーの中には家屋が全壊や半壊した人たちも多くいました。組合員の皆さんからのカンパ金は緊急支援として食料や家屋を修理する資材の提供や、バナナの生産を復興させるために活用しています。元のようになるには1年くらいかかりますが、助け合ってこの苦境を乗り越えようとしています。この頃はフィリピンでも日本の「結（ゆい）」のように「助け合って農作業をする」ということが減ってきていたのですが、この台風を機にそのような助け合いを広げようと考えています。

吉田　産地と消費地のそれぞれの課題、また共通の課題を解決するための行動として、これからも人と人とがつながっていくことをすすめたいと思います。そのためにも私たちは産地や農民の人々へ思いを馳せながら「よやく・る」の輪を広げていきたいと思います。

※粗放養殖：月の満ち欠けや潮の干満、水、気象状況など、大自然の営み（エネルギー）を巧みに利用した養殖技術です。粗放養殖池は、地域の自然環境を生かして作られます。

活・動・報・告

ワイワイ楽しく学ぶ「発酵食品」

堺市街地地域
消費コミュニティ
5月10日（火）
サンスクエア堺
（堺市堺区）

堺市街地地域委員
藤木 友香

5月10日（火）、初夏のさわやかな晴天のもと、サンスクエア堺で第1回「消費コミュニティ」を開催しました。「世の中の食べものってどうなっているの？」をテーマに、「発酵食品」について楽しく学ぶ企画です。地域ニュースで参加者を募ったところ、組合員歴の浅い方から40年以上のベテランまで、推進者も含めて6名が参加しました。

初回ということで、この日は自己紹介がメイン。お互いの興味や関心を知ることで、一緒に学ぶテーマを出しやすくするのが目的です。

「発酵食品は腸にも体にも良い。料理は苦手だけれど、レシピを知りたい」という意見や、「母親から“食べものはくすりだと思いなさい”と言われて育った。新鮮で添加物の入っていないものを選ぶようにしている」「さくらんぼ農家への援農がとても楽しかった！ また行きたい」という話も。「生米（なまごめ）パン作りにハマッている」という声には、「どうやって作るの？ おいしい？」とみんな興味津々。

納豆が話題になると、「パンに塗ったら美味しいよ」「いろいろ試したけれど、私はどうも苦手…」といったやり取りも。独特の風味があるのも発酵食品の特徴。「食べやすくするにはどうしたらよいか」が課題になることもわかりました。

他にも「着付け」や「狩猟」（!）といった趣味の話題も飛び出し、直接顔を合わせての開催ならではの活気ある会となりました。

次回は「納豆の苦手な人でも食べられるレシピ」に挑戦する予定。あわせて、今後どんなテーマについて学びたいか、アイデアを持ち寄ることにしています。1年間、ワイワイ楽しく学んでいきたいです。

こんにちは! 近畿親生会です <第7回>

㈱坂利製麺所　代表　坂口 利勝さん

1984年に創業し、今年39年目になります。工場は奈良県吉野郡東吉野村の山中にあり紀ノ川･吉野川の最上流に位置し、従業員はパートを含め30名で、乾めん製造など奈良吉野の大地を活かした製品開発をしています。

坂口家は、もともと杉や檜の林業で村人と共に生きてきましたが、冬になると山に根雪が積もって山仕事ができず、高度経済成長期に年間通した仕事ができず、過疎が進んでいた村でした。たまたま母(創業者の坂口良子さん)がニュース取材で話をした「素麺づくりは冬の仕事だから、山仕事がない冬に素麺をつくれば、村の産業になるんじゃないか」と発したことが当時大ブームとなった「おしん」放映前の奈良のローカルニュースで流れ村人の知るところとなり、数名の村人が集まり、母が36歳の時に坂利製麺所を始めることになりました。「東吉野は何もない」→「きれいな空気と水がある」、「東吉野の冬に仕事はない」→「人の手がある」、「インフラが整っていない」→「素麺はすぐ販売しない」などデメリットを全て逆手にとって素麺づくりが始まりました。当時は女性の創業者というだけで業界では毛嫌いされる中、泉北生協(現在のエスコープ大阪)が製品を扱うようになりました。

初めは素麺づくりの教室で習った通りに作っていましたが、母が子を思う気持ちから、どんどん原料を見直していきました。まず切り替えたのは素麺の表面に塗る油。現在、圧搾のごま油を使っていますが、初年度に使った油を次のシーズンまで残さず家庭で食べてしまおうとそれぞれ持ち帰って食べてみたところとてもまずく、調べたところ、製造するための精製度が高く箸さばきがいいように添加剤も入っていたようです。素麺は湯がいてからもみ洗いして食べるとなっているのはこのことも影響しているようです。現在、受け継いだ私としては創業者の思いを受け継いでいきたいと思っています。

「近畿親生会」として生産者同士の横のつながりができ、生活クラブ生協の皆さんともコミュニケーションが取れることが嬉しいです。新型コロナウイルスが発生した時にはマスクがなくなり大変な事態でしたが、「親生会」を通じて生活クラブ連合会の備蓄のマスクを分けていただき急場をしのぐことができました。全国の親生会の勉強会などに参加して刺激をいただくこともでき、これからは縁の下の力持ちにもなれるよう努力していきたいと思っています。

消費材を紹介します

母が子を思う心で作ったおそうめん

原料の90％を超える一番大事な素材である小麦粉は、国産小麦100％です。一般的にはかなり意識しないと国産小麦100％のそうめんは手に入りにくい状況です。創業当時問題になっていたポストハーベスト(収穫後の農作物に直接かける農薬)の心配のない国産小麦で作りたいという母の思いで実現しました。現在は手延べそうめんに合う北海道産の「南朝」という小麦粉と国産強力粉(北海道、九州)をブレンドして使っています。

箱入り
手延べそうめん・大容量

「坂口さんの奥さん」、「坂口さんのお母さん」ではなく、坂口良子として生きた証として入れた、商標登録マークである女紋の「杏葉菊」がついているパッケージの『手延べ葛そうめん』。原料の葛は、「黒川本家」(奈良県宇陀市)の吉野本葛(製造:奈良県、原料:近畿･九州産)を使っています。昔は葛入りの手打ちうどんを創業者の坂口良子さんの親戚の家でおもてなし料理として手打ちしていました。その美味しさを手延べ麺として表現した、坂利のオリジナル麺です。独特の食感で好評を得ています。

手延べ葛そうめん

坂口家のレシピ　「卵とじのにゅうめん」

うどんのかけつゆに湯がいたそうめんをそのまま入れて卵とじに。

～毎日の生活に根づいた、当たり前においしく、
当たり前の生活に使ってほしいそうめんです～

「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪

vol.4『組合員による組織運営』

エスコープ大阪は協同組合のひとつで、組合員の組織ですが、どのように組織しているかが重要です。今回は27週(7/4 ～)配布のりっぷる別号で総代会開催報告をしましたが、「協同組合の定義・価値・原則」の「組合員による民主的管理(運営)」についてお伝えします。

●充実した組合員活動の重要性

協同組合は、組合員の運営による民主的な組織で、組合員はその政策決定、意思決定に積極的に参加します。他人任せにせず「積極的に参加する組合員」が存在してはじめて協同組合が成立・実現します。

組合員の意思決定の最高機関が総代会であり、エスコープ大阪では2008年まで、より地域自治を実現する形として総代会に先立ち地域総代会(総会)も実施していました。しかし、地域単位での運営への課題や維持が難しくなり、エスコープ大阪としての運営に集中させることにより、協同組合としての組合員運営を維持しています。地域組合員の代表である総代と地域理事の選出については地域区を基本としています。

また、地域組合員のリーダー・活動の要として、「地域委員会」の運営が重要です。総代や理事に立候補や推薦される前提としては、組織や活動についての理解がないと参加することは実質的に困難だと考えるからです。充実した地域の組合員活動があってこそ、健全な総代会や理事会が運営されます。

●大切な組合員それぞれの役割

また組合員によって選出された代表者はすべての組合員に対して責任を負います。各組合の組合員は、「一人一票」の平等な議決権をもちます。一人一票制とは、出資金の多い少ないに関係なく、すべての組合員が一人一票の投票権と決定への参加権を持つしくみです。保有する株数に応じて議決権が与えられる株式会社の「一株一票」のしくみとは大きく異なるもので、協同組合の特徴と言えます。

地域理事を含めた役員は、すべての組合員に対して責任を負います。自分の選出地区の利益だけを考えるのではなく、組合員みんなの利益を考えて行動することが求められます。そして理事や地域委員などの組合員リーダーと(全体または地域の)組合員とは委任する委任される関係にあり、より良い充実した組合員組織には欠かせないものと考えます。

リーダーシップ(委任される側)
自信と責任をもって企画・立案し・実行への参加を促す

メンバーシップ(委任する側)
委任した責任において、今できる協力・参加を積極的(主体的)に行う

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用ＢＯＸまで。

232号『近畿親生会・㈱高千穂漢方研究所』を読んで

紙面モニター Kさん

この記事を読んで初めて親生会について知りました。ホームページも見つけて拝見しました。消費者と共に良いモノづくりをしたい企業があることに、少し嬉しくなりました。

第13回 理事会報告 <6月1日>

【4月度決算報告】
●供給高　2億3,096万円
(前年同月比102.1%)※配達日は1日多い
●組合員数　18,768名(前月比−196名)
●一人当たりの出資金　88,688円

【5月の放射能検査結果】
5月は連合消費材601検体、関西消費材3検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

[決議事項]
①役員人事委員会の設置について
②特定個人情報取扱規程と特定個人情報の取扱いに関する基本方針の策定

[協議事項]
①エスコープ大阪第56回通常総代会の運営
②議案書の最終確認と修正提案
③2022年度の理事担当
①原州協同社会経済ネットワークとのオンライン交流について
②ウィズコロナの状況でのエッコロケアコーディネート依頼について
③立川稲刈り交流会について
④ゲノム編集トマトの苗の小学校配布に反対する行動の提案について
⑤生活クラブ2030行動宣言ポスターの発注について
⑥生活クラブえほんの増刷に伴うエスコープ大阪の希望について
⑦理事「広報・資料」学習会の日程調整の件

[報告承認事項]
①議案書読み合わせの共有
②総代会での議案提案者の変更と生活クラブ連合会・共済連への実出席人数の変更

編集後記

エスコープ大阪の全地域で、組合員が主体的に興味・関心ごとに取り組む、コミュニティづくりが始まりました。どんな方と出会い、つながることができるか楽しみです。(Y)

キリトリ

Ripple おたよりネット

理事会事務局行き
234号(2022.7.25)

(ペンネームOK)
●お名前　　●地域名

●班・コース名　　●組合員コード

発行:生活協同組合エスコープ大阪　制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪
〒590-0151　堺市南区小代727
TEL.072-293-4660　FAX.072-341-0022
https://s-osaka.seikatsuclub.coop/